

1 調査概要

本調査は、まちづくりの総合的な方向性を定める第2次奥出雲町総合計画・第2期奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり、各分野で多様な事業形態で積極的に活動する企業・団体を対象として、事業主体の取り組みや分野別の特有の課題、今後の活動意向・展望等を把握し、新たなアクションプログラムにおける取組を検討する際の基礎資料とすることを目的とする。

調査期間	令和2年7月下旬～令和2年8月下旬
調査対象	町内団体・企業
対象数	82件
調査方法	メールによる配布・回収
回収数	62件

(2) 奥出雲町で活動を展開するメリット・デメリット

メリット	
食・ブランド	● 日本農業遺産や仁多米をはじめとする地元の食材
自然・環境	● 自然豊かで暮らしやすく、ストレスの少ない環境
地域コミュニティ	● 地域が小規模で組織がしっかりしている
事業・活動	● 米造りに適した環境、共同オフィスで情報交換できる ● 地元出身者の雇用や地域に根差した活動ができる
人材・組織	● 町内出身者の定着率が高い、また手先が器用で忍耐強い ● 都市と比べ人材確保がしやすい（子育て世代も含む） ● やる気があれば組織や事業が立ち上げやすい
地域資源	● 奥出雲にしかない評価の高い農産物が沢山ある ● 豊富な観光資源、災害が少ない ● 工夫一つで精神的に豊かに暮らせる

デメリット	
人材確保・雇用	● 人材確保、特に専門技術者の採用が難しい ● 新卒者の勤める職業がない ● 中山間地域というイメージから女性が集まりにくい
事業・活動	● お米以外の農産品が少ない ● 公益事業・収益事業の資源が少ない ● 事業規模が大きくなりにくい
交通・物流	● 交通の便が悪く、輸送コストが高い ● 通勤が困難（冬季の積雪でも通勤困難になる）
都市機能	● 社会インフラ、都市機能の不足
情報通信	● インターネット環境が脆弱
行政	● 行政の施策と民間事業者のニーズが合致していない ● 行政側の人材不足

(3) コロナ禍による営業・事業活動の変化

- 営業・活動方法の変化では、直接の接触を避け、ネット通販の強化やオンラインによる活動に多くの団体が手法をシフトチェンジした。
- 出荷数を集約するなど、輸送・旅費コストや移動ロスの圧縮が図られた。
- その他、買い物代行や注文販売などへの販路拡大がみられた。

2 調査結果

(1) 運営上の課題と解決策について

	運営上の課題	課題の解決策
農業①	● 人口減少、高齢化に伴う後継者・人材不足が顕著である ● 産地間競争の激化の中「出雲國仁多米」ブランドの売価が低い農家の収入につながっていない ● 「出雲國仁多米」のブランド力を一層強固にすることが最重要課題	● 継者確保のための家族型農業や農地集約と経営体運営 ● 「出雲國仁多米」ブランドの付加価値を向上し、通販や百貨店への販路拡大が進められている ● 農業の基盤整備や機械化（スマート化）への支援が必要とされている
農業②	● 農業・農産加工における高齢化による人材不足、担い手の高齢化、農家の後継者不足、不安定な農業収益が問題 ● 利益優先のために在来種の横田小ソバを扱う蕎麦屋がほとんどない（他地域との差別化で重要） ● 仁多米のブランドは価値が下落しているため、さらに付加価値をつけることが重要 ● 農業指導においては、新規就農者や若手農業者との連携、掘り起こし、世代交代が進んでいない ● ITを活用した農業経営において、事業開発では生産者を含めた産地との連携が重要。また、サービス普及では行政や農業関係団体との連携と協力が欠かせない。関係団体を巻き込むことが重要	● 農産加工品について、定期的な弁当調達など加工品の販路開拓を進めている ● 町外をターゲットにしたブランド化には、生産者と一体的に取り組むことが重要。まずは奥出雲町産のみを使ったそば処としての確立が差別化につながる ● 農業収益の安定化に対して、コスト縮減等における目標の明示が重要である ● 新規就農者の情報共有、若手農業者の組織強化、学校教育者と農業士の勉強会などを展開している ● ITを活用した農業経営の導入を支援するような補助制度、もしくは、モデルケースを構築するような事業を行政で企画してほしい。各ステークホルダーが課題意識を持って、主体的に動いていただけるような状況ができるとよい
林業	● 森林所有者の山離れ、後継者不足（山林所有者、組合の働き手共）、生産農家の高齢化 ● 木材価格の低迷 ● 林道・作業道等の基盤整備の遅れ、森林の境界不明 ● 品種「雲太」の栽培における収量、品質の安定化	● 林道の基盤整備、作業道等の基盤整備については、国・県等の補助事業を活用する ● 労働環境における負荷の軽減には、高性能林業機械取得助成・後継者対策支援が必要 ● 小中学生対象の森林教室・中高生対象の体験学習（教職員対象含む）を通じた森林への理解に取り組まれているが、PR活動助成があるとよい ● このほか、地籍調査事業の早期完了、森林環境譲与税の活用ができるとよい
畜産業	● 畜産農家の高齢化、後継者、担い手がなく、飼育農家が減少	● 集落営農組合等に畜産を取り入れ、通年雇用で経営をしてほしい
製造業・IT	● 人材の確保、特にIoT分野の開発については、技術者の採用が叶っていない ● サテライトオフィスについて、通勤手段に車通勤を許可しなければ、現実的には出勤出来ないため、現地での雇用も難しい	● 技術系の新卒・中途社員の採用のほか、既存従業員の内社教育での技術習得・向上 ● 技術習得に対する助成制度、UIターンが魅力を感じる受入制度が必要 ● サテライトオフィスへの通勤については、企業の就業規則変更を要求するだけでなく、通勤手段の選択肢を増やすような検討をして頂きたい
その他産業	● 建設業では、工事発注や施工時期の平準化が課題 ● 伝統工芸では、地元出身者から職人を育成できず、他県からの採用は定着率が低い	● 横田高校生などに対して地元企業に就職してもらえよう働きかけをお願いしたい
観光	● 会員の高齢化、後継者問題、若者の流出による、現場の人材不足 ● 収益事業が少ない、農泊施設が少ないため集客に課題がある ● 農泊推進協議会が形骸化していて実行力が不足している ● 日本農業遺産が活かされていない	● ECサイトの運営 ● 一般の飲食店、観光施設、商店等を巻き込んだ活動 ● 農泊自体よりもその波及効果に期待して取り組む必要がある
産業全般	● 経営課題の多様化や専門化により支援に高い能力が必要 ● 遊休施設や空家空店舗の増加、事業承継、物流費の増加問題	● 人口減少に一定の歯止めをかけるためにUIターン対策を積極的に進める必要を感じる ● 農産物を中心とした生産活動の活発化を望む ● 横田高校は全国区で生徒募集し衰退に歯止めをかけ、地元企業への就職を働きかける
住宅・UIターン	● 不動産に関する各種窓口が一元化されておらず調整が困難 ● 空き家バンク、無料職業相談、UIターン者のサポートに対して町民の認知度が低い ● 社会情勢の変化でUIターンが減っているが、UIターンの人への理解が低い	● 移住、定住のマネジメントができる社団法人を設立し行政サービスを担いたい ● 空き家の利活用は魅力的な物件に限られる。解体費を補助できるような制度が必要 ● 空き家バンク制度の周知、空き家物件のモデルハウス、短期入居、UIターン希望者への滞在プログラムの長期化 ● UIターン者へのサポート体制の充実、積極的予算配分がなければ人は増えない
保健・医療・福祉	● 高齢化と共に一人暮らしの増加、通院が困難になる人が増えている ● 施設の職員も高齢化、人材確保（特に有資格者）が難しい、このような状況が続けば事業の縮小しなくてはならない状況 ● 障がい者福祉については、住民理解が乏しきから障がい児教育の遅れを感じる ● 職員数に対し事業数が多く、きめ細やかなサービス提供が困難	● 地域包括ケアの充実のためには、保健・医療・福祉の連携強化とともに課題に対応する迅速な対応が必要。そのためにも、どの機関もオンラインで協議できる環境と専門のコーディネーターが必要 ● 人材確保のためには、地域包括ケアシステムのプロジェクトとして、人材確保のネットワークを構築しつつあり、法人、事業所単独ではなく、町全体で取り組みを始めている。介護人材の確保が喫緊の課題であり、町外からの通勤に奥出雲町独自の支援を行うなど、行政からの働きかけが必要 ● 障がい者福祉については、障がい者（児）との接点を意図的に作っていく機会をつくる
教育・文化	● 高校の魅力化では、地域とコーディネーターが接触する時間を確保できる体制が必要 ● 横田高校の在り方を、擦り合わせる地域代表が存在しておらず、一刻も早くこの状況を解消する必要がある ● 教育問題に教育委員会と住民と一緒に取り組む体制になっていない ● 少子化に伴い、多様な人間関係の中から幅広い経験を得る機会が減少している ● 文化活動・芸能活動では、メンバーの高齢化や幅広い世代の担い手確保が困難になっている	● 高校魅力化コーディネーターの安定的な人材確保をすべし ● 教育委員会と共催の形でPTAなどへの周知を行えると町民の参加が得やすくなる ● 公共施設の活用について、手続きをスムーズ化するとよい ● 地域ごとに子どもたちにどんな力をつけていくのか、課題を整理すること ● 多文化共生をキーワードに行政及び関係組織と連携した住民協働の事業や活動の実施 ● 技術・技能の継承者、歴史的知識者等講師の人材活用助成
結婚・子育て	● 少子化により保育所運営を継続していく事が今後の課題 ● 高齢化による地域講師、協力者などの支援者の減少が懸念される ● 課題は見つかるが解決には至っていない。若者の声を行行政にどこまで届けられるかが課題 ● 20～30代の女性の町外、県外流出が著しく、結婚に対して親子共々に価値観が変化しており、結婚に対する意欲が希薄	● 在宅親子が参加しやすい雰囲気づくり ● 世代間交流にも力を入れる ● 町民たちから出た声をしっかりと町に届けられるような仕組みがほしい ● ふるさと教育のさらなる充実で郷土に愛着と誇りを持つ人材を育てることで、UIターン者を増やす ● 親対応セミナー、中高生向け「人生」ライフプランセミナー
地域コミュニティ	● インターネット環境が脆弱でオンライン・イベントに支障がでる ● 常勤職員が1名しかいないため、寄付集め、視察などの業務が常態的に行えていない ● 様々な課題はあるが、住民に「どうせこのまま人がいなくなるだけ」という諦めの感情がある ● 縦割り行政で、どこが主体で対応してくれるかわかりにくい	● 良質なインターネット環境の提供 ● NPOセンターの開設、様々な補助金制度を一括して取りまとめる部署があるとよい ● 町が大手の店と提携し、各地域を定期的に巡回し買い物弱者支援を取組んでいただきたい
地域交通	● 運転手の高齢化と若年者の新規雇用の難しさによる人材不足 ● 人口減少に伴い利用者も減少傾向にあり、今後先細りになる可能性が高い ● 運転手を増やすだけの売り上げにならない	● 若年層の大型2種免許取得推進（現在社内取得制度あり）に向けた行政支援 ● 高齢者を対象とした町内各神社仏閣及び史跡巡り等による貸切バス利用促進 ● 交通サポート券は、老々世帯でも助成対象者にかなりの条件があるので条件を緩和してほしい ● 運賃の値上げに伴う交通サポート券の対象額アップ
環境	● 除草作業が大変 ● 希少生物の生育を考慮した施工するにあたり、研究機関のアドバイスも必要	● 草刈り支援、イベントは高校生の協力がある ● 清流水との関りから学校教育の現場としての利用にも役立てて頂けたら良い活動になる

（4）奥出雲町の対外的アピールポイント（魅力）

- 日本農業遺産認定、食・ブランド、奥出雲という名称のイメージ、歴史・文化・景観などの地域資源がある
- 周辺都市との程良い距離感、災害が少なく、落ち着いた住環境がある
- 子育て支援や子育て環境が充実しており、学校と地域の関りが濃密、目が届きやすい地域の規模、人の温かさがある
…などが魅力（アピールポイント）としてあげられた。

（5）過去10年間の町の施策について

ポジティブ評価		ネガティブ評価	
政策全体	● 農業・子育て・教育・高齢者福祉などの普通の生活に十分活かされている	政策全体	● 施策は総花的で予算配分が全方位過ぎる ● ありきたりな施策であり、成果が見えづらい
産業	● 産業振興に関しては、色々な取り組みが成果を上げている ● 農業についてもブランド化等により先進的である	人口対策	● 人口減少がここ10年間で激減傾向にあり対策が急務 ● 今後はさらにスピード感をもった施策が必要
福祉	● 貴重な一般財源の支出を最小限に抑える努力を高く評価	産業・企業誘致	● 地元企業が優先されているか、やや疑問 ● IT・研究開発型企業の誘致で人材確保の手当てが不十分
子育て	● 奥出雲町の子育て支援（無償化・減免等）は子育て世代の方々にとって非常に助かる	教育・文化	● 学力や志、目的意識が高い生徒ほど町外へ出ていくため、横田へ通う地元生の減少は止まらず、同時に学力や資質の部分で伸び悩む生徒の割合も増えています
地域コミュニティ	● 住民型「きらり輝く事業」は地域を元気にする活動として、とても良い事業	情報通信	● IT企業・研究開発型企業の誘致促進について、ITに必須な高速回線の整備がなされていない

- 農業をはじめとする産業振興、福祉、子育て、小さな拠点づくり、住民型「きらり輝く事業」、個別の活動に対する行政支援に高い評価がある。
- 政策全体における重点や成果が見えづらいことについて課題が指摘された。
- 分野別では、少子高齢化・人口対策、産業・企業誘致、教育における横田高校の存続や幼稚園・小学校・中学校の再編、安全安心施策、情報通信基盤整備などにおける課題が指摘されている。

（6）施策の改善、アイデア

産業振興・産業支援	● 若者が魅力を感じる企業誘致 ● 企業等との連携やノウハウの生かせる取り組み	● 持続的な林業経営のための長期ビジョン ● 観光と農業生産物の活用による外貨獲得施策の再構築
農業	● 仁多米生産の集約とスマート化による省力化、かつリスク管理の可能な生産方式に切り替え ● 水稲以外の品目での新たな奥出雲型農業モデルの構築による仁多米がなくても奥出雲町の農業生産が成長していける状況	
雇用・人材確保	● 雇用のマッチングが良くなかった時の支援 ● 新規学卒者の採用という点では、地元の横田高校の存続、あるいは生徒数が増加するように積極的な働きかけが必要	
定住対策	● 奥出雲ならではの、魅力を満喫できる生活を送れるかが鍵。 ● 奥出雲ならではの、魅力を満喫できる生活を送れるかが鍵。 ● 奥出雲ならではの、魅力を満喫できる生活を送れるかが鍵。	● 高校在学時点で、将来町内へ帰りたい希望がある方と繋がる ● 家賃補助（町営住宅に限るとか限定条件で良いと思うが）で ● ティングの機会を持って、方向性を出したらよい
情報発信・PR	● 差別化できることを磨き上げ、認知させること ● 全国に誇れるものが多々あるため、テレビ・マスコミ・報道等を有効に活用し、情報発信を積極的に行う	
子育て	● 投資対象として子育て世代に重点配分し未来を作る ● 子どもが豊かな体験ができる場づくり	● 「放課後子ども教室」や「放課後児童クラブ」を住民団体も受託できるように制度を整えて頂きたい
教育	● 町唯一の高校の未来について、もっと関心をもって欲しい ● 奥出雲の環境を活かして、都市部の教育よりも充実した学びができ、生きる力や学習面が伸びるという仕組みを作って、対外的にPRしていくことで子育て世代に魅力を感じてもらおう ● 『いつでもどこでも誰にでも奥出雲のよさを語れる子』に親と共に育ててほしい。	
地域コミュニティ	● 地域の仕事・イベントの再編 ● 基本となるのは、若者同士のコミュニケーションの場。みらいと奥出雲の開設により他地区との交流が始まった	
文化活動	● 郷土芸能などに取り組んでいる団体など、町の文化財指定などをしていただきたい	
医療・福祉	● 幼少期から体験学習やボランティア活動等を継続し、福祉や介護に興味や魅力を自然と感じさせる教育 ● 産婦人科で出産ができなくなれば、子供を産み、育てる人はいなくなるのは当然。具体的な対応策を示すべき	
通信基盤	● ネット環境の改善をし、企業の誘致に力を入れてほしい	
政策・施策運営	● 明確なメッセージ性のある施策を提示して欲しい ● 重点施策項目をあげてもいいのではないかと	● 行政職員や第三セクター職員の成果に応じた報酬システムの導入 ● 町職員全員が施策の目的を論理的に分かりやすく説明
体制	● 様々な業種の企業、また学校に協力して頂き、その力を借りて活動を進めたらどうか ● 各担当課の枠を超え、縦割りではなく横の繋がりを密にした、本町オリジナルの事業展開が望ましい	

- 企業との連携や放課後児童クラブ等の住民団体へのアウトソーシングに関する提案があった。
- 個別分野では、農業分野で水稲以外の品目での新たな奥出雲型農業モデルの構築が提案された。
- 定住においては、「町内在住者と移住希望者のミーティングによる、定住対策の洗い出し」や「都市部の教育よりも充実した学びを提供することにより、子育て世代に魅力を感じてもらおう」などのアイデアが寄せられた。

（7）連携できる取組み

農業	● ふるさと納税返礼品「仁多米」の販売強化 ● 新規就農者の獲得	食育活動	● 豊かな食材を利用し、手軽にそして健康志向の料理の提供
農産加工	● 6次産業化地産地消で奥出雲町産へのこだわり、徹底したブランド化への取り組み	地域医療	● 訪問診療、訪問看護などの充実 ● 特に介護予防支援
IT農業	● スマート農業による生産の支援、流通支援や実証実験の協力 ● 全国の青果実需者とのマッチング	地域福祉	● 町防災計画また災害時マニュアルの一部として、災害ボランティアセンターと連携する必要がある
林業	● 日本農業遺産との連携によるブランド化の推進	高齢者福祉	● Uターン向けの町の福祉人材についてのPR 活動 ● 災害時の福祉避難所としてのサポート
観光	● 既存の施設を利用した体験実習などの受け入れを行い、地元住民との交流が図れると活性化につながる	障がい者福祉	● 地域生活支援拠点等整備において、町と連携し利用者の受け入れ、専門的人材の確保、地域の体制づくり
産業（その他）	● 誘致企業間での情報交換などへの参加 ● 雇用する側と求職者（新卒含む）とのマッチング	高齢者雇用	● 空家対策における現場管理、福祉事業への派遣
不動産	● 空き家バンクの運営など住宅に係るような事業は全て事業委託でアウトソーシングしていただくことで、住宅に関する窓口を一元化できる	高校魅力化	● 地域課題を高校・高校生の力で解決する仕組みが生まれると、高校が地域に欠かせないインフラとして価値が高まる
定住・雇用	● まち・ひと・しごとセンター奥サポの位置づけの強化 ● 移住・定住対策の充実強化（雇用・定住の促進）	教育環境	● 児童が放課後に、様々な体験ができる場づくりをしたい
地域コミュニティ	● Uターン者への移住定住促進事業 ● オンラインを活用した自治会の開催や、広報の電子化の際の地域住民へのサポート	子育て支援	● 保護者のニーズに合わせた子育て支援 ● 発達の子への支援、関係機関との連携 ● 子育てコンシェルジュとの座談会
		結婚支援	● Uターンフェアにおいて田舎での結婚相手探しを募る

- 各分野での事業活動からの連携ほか、住宅に関する窓口や児童の体験の場づくりに関する取組について連携が提案された。
- その他、災害時の町の体制として災害ボランティアセンターとの連携の必要性が指摘された。

（8）新たに取り組むべき施策・事業

産業活性化 地域活性化	● 全国に発信でき、全国で認知される地場産業や農畜産物の生産販売 ● 仁多米のブランド化について、特別栽培米を増やすためには支援策が必要	● 基幹産業である稲作農業の継承と農業所得の底上げ ● 全圃場が堆肥施用米販売ができるように、堆肥の製造、散布を促す取り組み
魅力向上 ブランディング	● 食材を如何に世界に対してアピールして浸透することができるか ● カヌー・自転車・トライアスロン等と地の利を生かしたスポーツ事業を開催し聖地として浸透させる ● 企業誘致（従来の工場誘致だけでなく、通信などのサービス関連や農業なども含む）や、観光資源を生かした集客のためのPRと体制づくり	
雇用・ 定住対策	● 雇用を生み出す事業 ● 介護・育児等の負担を減らし、積極的な社会参加を進める取り組み ● テレワークなど、地方でも可能な業種を積極的に町内に呼び込む	● 一つの企業で完全に雇用する形は中山間地では困難である。一人を分散負担して雇用できるような仕組みが必要 ● 子育て教育環境の充実によりU・Iターンで求めて来る町
インフラ 整備	● 中心地（三成）の活性化のために町中整備を進める。（高齢者及び若い人も住みやすい場所） ● 農業（特に田んぼ）の継続維持のため、高齢化しつつある集落組織の大集約化（例、農業株式会社などにする）の早期改革 ● 交通インフラの整備	
医療・福祉	● 「元気プラン21」については、成果より負担を感じる。現状と未来に合わせた町民の健康施策が必要 ● 奥出雲病院の産婦人科、小児科の医療体制整備	
教育・子育て	● 保育・教育、幼稚園・学校の統合化を進め、人材確保を図る（保育士の確保が難しいとの声を聞くが統合すれば人員は充分ある。） ● さな子供たちに十分な環境を整え、子育て世帯の負担を軽減し、他地域から「奥出雲で暮らしたい、子育てしたい」と思えるための施策に注力していただきたい	
情報通信	● 教育のICT化に耐えられる通信環境を早急を実現すること ● オンラインでの情報共有ができるシステムを、行政、教育、地域の連携で検討してはどうか	
体制	● 町を引っ張っていく人材の育成が不可欠だと考える。民間団体との人材交流などを行っていただき、外部からの刺激を受けていただく ● 若い人たちが意見を言え、やってみようとすることを後押しする体制作りと活躍できる場	
その他	● 強い目標設定とスピード感を持った対応	● 町民が一体感をもてるスローガン等

- 特別栽培米への支援や地域雇用、産婦人科・小児科の医療体制など、各分野で注力すべき施策について提案があった。
- 体制として、若い人たちのチャレンジを後押しする体制づくりと活躍できる場が求められている。

（9）新しいまちづくりへの意見

若者に魅力あるまち	● 若者が増え、子供が増える町になるように、働き場の確保、奥出雲町のメリットの定義化 ● 町政をどんどん若い世代に預けていくことをお願いしたい ● 若い人たちが残りたい、戻ってきたいと思えるような街になるとよい ● 大学や高校生が卒業後、奥出雲町で仕事をしたくなる魅力ある街づくりを期待	住んでいる人が愛着を持てるまち	● 現在住んでいる住民と、勉強や就職のために町外に出た住民が一丸となって故郷奥出雲町を守っていくための土台となる施策立案
人や企業が集うまち	● 定住または短期間宿泊など地区外からの訪問者を増やし、関連する産業で地域活性化を図る	コンパクトシティ	● 中学校区単位でのコンパクトシティ ● 自治会くらいの小地域でのコミュニティが充実すれば町全体が良くなる
全国に知られる町	● 全国に認知される活動で地域が活性化する ● セカンド町民制度の創設 ● 交流人口にターゲットを絞る	ICTが進んだまち	● 田舎でありながらICT化が随分と進んだ町 ● 小中学生のタブレット活用に注力してほしい
田舎らしさのある町	● 都会には無いもの・都会では出来ない事をアピール	ハード整備	● 三成中心市街地のまちづくり再構築計画 ● 仁多、横田庁舎の統一と効率化
		民間や住民と協働のまちづくり	● 民間へ委託し、新たな考え方を吸収 ● サラリーマンや主婦が議員活動できる町議会
		その他	● 奥出雲町のポテンシャルは非常に高い ● 頑張って盛り上げていただきたい

- 若者に魅力あるまちづくり、人や企業が集うまち、住んでいる人が愛着を持てるなど、“人を惹きつけるまち”への提案があった。
- ICTが進んだまち、三成中心市街地整備のほか、セカンド町民制度や協働のまちづくりなど具体的な手法に関する提案があった。